

ヴァーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第4号

発行人 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-5
 TEL & FAX 0423-95-9788

リサイクルコストの負担者は

理事長 紺野武郎

製紙メーカー各社は、昨秋より断続的に古紙価格を値下げして、この二月よりさらに大幅な下げを強行してきた。

三月の問題引取価格は、新聞段ボールでkg当り4円・雑誌に至っては0.2円と、業界が今までに経験したことのないゾーンに入り込んだ。

回収コストは最低8円かかりしかも大量の問屋在庫を目の当たりにして、三月二八日回収業者は命懸けの決起大会と製紙業界に抗議デモを行った。

彼等が、一世紀もの間垂れ流してきた紙ごみを、ただ黙々と回収し高品質の製紙原料に戻してきた回収業界を見捨て、自治体の清掃業務に肩代りさせようとの、共同謀議が見えてきたからだ。

三月一四日の定例都議会において、青島都知事は「リサイ

クルの青島と呼ばれるようになりたい」と資源循環型社会の確立に向けて決意表明した。

しかし今、もっとも川下で、多額のコストをかけて分別回収をすればするほど、紙ごみは捨てやすくなり、安い古紙を提供して無駄遣いを助長することを証明してしまった。

市民も行政も、製紙産業界の悪魔のシナリオに組み込まれてしまったかのように見える。

青島知事には、まず川上をせき止める勇断を期待したい。排出者責任の強化、再生紙の使用義務化など国の法制化の及ばない部分に踏み込んだ都の条例化は不可能だろうか。

特にトイレットペーパーのような品目を限定して純パルプ品の販売や使用の禁止などは、都民の支持が十分に得られるのではと提案したい。

ドイツのデュアルシステムでは、すべて企業がコスト負担をすることになっているが、

古紙のリサイクルコストとして企業はkg当り40円からの負担をしているとのことだった。

この様に、欧州を中心とした世界的な傾向として、動脈産業の中に静脈産業を内部化することが資源循環型社会をつくる原則と云われている。

安い古紙価格ながらも、その中で極限的な努力をして営業してきた回収業者は、言わばかろうじて動脈産業の内に組み込まれた静脈産業だったのかもしれない。

国のリサイクル政策も産業界の方針も、世界の潮流に逆行して静脈産業を地方行政の役目に押しつけて動脈産業から切り離そうとしている。

本号では小平市の廃棄物減量審議会でご活躍の後藤先生に廃棄物とリサイクル事業の、興味ある問題提起と解決のためのヒントを頂きました。

山際社長の「ボロのはなし」も専門業者の貴重なお話です。

直言拝聴

リサイクル可能な
経済システムの構築を

小平市廃棄物減量等推進審議会委員
工学院大学専任講師

後藤 弘太郎



リサイクルは環境保全の有
力な手段の一つであるが、今
や一人歩きしてリサイクルの
ためのリサイクル、大量リサ
イクル、大量生産、大量消費
の経済システムに巻込まれて、
環境問題が忘れられてしま
いそう。真の解決のために何
をなすべきかを考えてみたい。

分別してもゴミはゴミ

私にとって、リサイクルと
の関わりは、遙か昔、子供会
の資金稼ぎのための廃品集め
であった。集まる量も少な
かったが瓶も缶も紙もそれぞ
れの業者に売り渡しそれなりの
収入を得ることが出来た。廃
品が多く集まる世の中になっ
てそれらは安くなっていった。
さらに行政から補助金がでる
ようになってついに集めた廃
品は廃棄物（逆有償）となっ
てしまった。

企業の性格とは

現在、リサイクルが採算に
合わなくなった背景は大量生

産方式で物が安く造られるよ
うになったこと、安いもの
であればはるばる遠くからで
も輸入する、大量生産、大経
済圏、そして国内の人件費と
土地代の高騰がある。その結
果今まで利用していたものも
採算がとれないので廃棄物と
なってしまった。

ゴミと資源の違いはその時
代の技術で加工して、製品を
作ったとき、採算が取れる、
つまり儲かるものが資源で、
儲からないのがゴミである。

生産活動には、資本、労働、
自然が不可欠だが、市場経済
の視点からは買ってくれる人
がいることが大切である。市
場では生産物は商品と呼ばれ
買い手との間で値段が決まる。
製造原価と売値との差が儲け
となる。

市場メカニズムに現れない
経済効果を外部経済と云い。
被害の受け手から見れば外部
不経済という。外部不経済は

環境破壊となることが多く、
環境を保持するには、この外
部不経済を内部化すると良い
のだが、企業活動では、費用
最小の原則が企業倫理に勝る
から儲からないものには手
を出せない。

技術的にはリサイクルは可能

一方技術の進歩が公害や環
境汚染をひきおこしている
と批判もあるが、企業は社
会に商品を送り出すことで存在
価値があるのであって、市場
で売れる製品の開発に企業は
最善の努力を注ぐ。市場で付
加価値が高いと云われる製品
を生みだしてきた企業の開発
技術力は、公害対策でも環境
問題でもその都度技術的な飛
躍があった。ゴミ処理やリサ
イクルのプロセスにおいても、
分別、収集、保管、輸送、処
理、利用、処分それぞれの
段階で天然資源の利用技術が
生かされる。

費用は誰が負担するのか

ゴミ処理の費用負担のあり方で、企業負担か税金負担か消費者負担などの議論もあるが、税金は住民が払うものであり、企業が負担したお金は商品の代金として消費者が払うものなので、最終的には消費者すなわち住民が負担するのにかわりはない。どんな方法が公平で、徴収しやすいか、また環境保全を進めやすい消費生活を誘導できるかで考えなくてはいけない。

ゴミの有料化では環境汚染が進む

ゴミの減量、リサイクル推進のために、自治体がゴミ収集の有料化やゴミ処理サービスの低下をさせると市民は自己と自衛し、ゴミ処理の自己処理を行い、買い控えをし、ゴミになるものを買わなくなる。市場はゴミにならないものが売れるようになり環境に優しい企業活動が求められる

ようになるという。しかし消費者がそういう行動をとるものとするなら、何で現在の大量の廃棄物がでるような生活をしようになったのかという問いに答えて欲しい。消費者とは価格と利便性を判断基準に買い物をすると理解している。

また自治体がゴミを有料化するときに、「ゴミについての市民の関心をもたせるため」とも云われているが自衛のため不法投棄や適切でないゴミ自家処理の増加が環境悪化を招く。

もう一度 消費者、企業、

公共の役割を確認

消費者は、製造プロセスや材料について何が自然に優いかとか、その物質はどんな性質を持っているかと云うことについて企業ほど情報を持っていない。そして先に述べたように価格と利便性で物を選ぶ。生産者である企業は、

これも先に述べたように技術的専門家の集まりで生産技術は高くこの技術は環境についても高度な情報を持っている。しかし企業では費用最小の原則が優先される世界で、環境に良くても製品価格が高く消費者に好まれないものを進んでやる決断が出来るわけがない。

公共とは、市場に任しておけないことをやるものだ。だから今でもゴミ処理をしたりリサイクルを推進したり補助金を出したり現在でもかなりの金額を税金で負担をしている。しかし今のやり方がお金がかかって地球に優しくリサイクルが進み、ゴミが減量する方向には向いていない。

公共のやるべき事は環境の保全を第一に考えてリサイクルを推進しゴミ処理の責任を持つと同時に、製造物ごとに環境に配慮した処理して、その費用を製品ごとにそれを作

り出した企業に負担してもらおう。企業は費用最小の原則に従って、製造過程や材料を見直し、環境に優しい製品を造ることが企業のゴミ処理負担の軽減となる。それでもかかる負担はその利便性を享受する消費者に商品代金の一部として負担してもらえば良いのである。

結局、利便性を享受した消費者がその製品のゴミとなつたときのリサイクル、ゴミ処理の費用を負担することになるので、処理費用の負担の公平ともなる。

経済システムの確立を

以上述べてきたようにリサイクルは技術的に可能だが、金がかかる。この負担を企業原理、消費者心理、公共の役割でリサイクルが成り立つような経済システムにすればよい。どのようか合意形成をしていくのが課題だが、紙面がたった。またの機会に。

ボロの話し

（前）山際商店社長 山際勝司
私は東多摩再資源化事業協同組合賛助会員として日頃皆様に大変お世話になり、ありがとうございます。紺野理事長の強い要請によりボロについて投稿してほしいということで私なりに書かせていただきました。

私はこの道、故繊維業（ボロ）四十数年たずさわて参りました。昭和二八年日暮里（荒川区東日暮里）故繊維問屋に勤務（丁稚奉公）徒弟制度のきびしい私共は最後の年代だったと思います。

十数年勤め終え、昭和三九年（東京オリソニック）の年に独立しました。当時はボロ（紙）の回収はリヤカーが主流で建場（たてば）業の皆様が黄金時代じゃなかったでしょうか。

その後チリ紙交換が発生し

て機動力を発揮されボロの発生が一気に多くなり我々業界の対応が大変だったことを覚えております。

四〇五年前より自治体行政回収が活発になり一段と我々業界の受け皿づくりが大変となって参りました。

四〇五年前までは我々故繊維業界はまさに仕入れ競争の毎日でした。

一転して行政回収（安定的に大量）が出現して以来、売り手市場より買い手市場に一変したかと思えます（これは喜ぶべきか悲しむべきか）折角集めて頂いた商品（ボロ）企業努力により解決（消化）しなければならぬかと思えます。ボロを扱っておりますと季節によってまた地方によって回収されてくるボロの量も種類も明らかに変わってきます。回収量はやはり春秋に多く寒い冬や暑い夏は減少します。一般的に衣替えの時が

ピークです。

◆品質について

戦前はボロは綿か毛織物それにぐっと少なくなりますが麻と絹それぐらいでした。

戦後昭和三十年以降、化学繊維や合成繊維が出回り初めウエス不適格品が多量に出るようになりました。最近では日本人の衣食住の衣は特にグレイドが上がったと思います。発生する地区により千差万別です。最近ウエスの需要が減少しておりますので撰分方法としてできるだけ中古衣料を生かすような方法をとっております。

◆ボロの撰分について
ボロの用途はウエス30%、中古衣料30%、反毛材料15%残り25%は利用できずゴミとなります。

①ウエス（機械掃除用布）
大口のお得意さんは自動車メーカー、造船所、製作所、石油コンビナート、印刷等々。

ひところの円高不況でユーザーが海外に移転し空洞化が進みウエスの需要が減少しております。最近では円安傾向で輸出関連企業（自動車等々）と消費税引上げ前のかげこみ需要等で一部で薄日が差しておる所も散見されますが、相対的にはひところよりウエスの売上はあきらかに減少しております。

②中古衣料
国内向けの中古衣料もありますが、大半は輸出向け中古衣料です。中古衣料輸出については数量的には比較的安定しているが為替相場の円安傾向の中でも価格復元はなかなか進まないようです。

主な輸出先は香港、シンガポール、パキスタン、マレーシア、バングラデシュ等々。輸出向けの古着は約八十種類に選別します。まずは、婦人用、紳士用、ベビー子供用。その他の四種類に分けます。

婦人用はワンピース、スカート、スーツ、ブラウス、セーター、コート、Gパン、ブラジャー等々。紳士用は背広、ズボン、Yシャツ、ネクタイ、オーバー、ジャンパー、Gパン、トレーニングウェア等々、ベビー子供用はベビー毛布、ベビーニット、ズボン等々、そのほかは毛布、カーテン、帽子等々なのです。

③反毛(はんもう)

繊維屑(ラシヤ、化セン、その他)を機械(反毛機)にかけて綿(ワタ)の状態にし糸に撚り上げます。もっぱら軍手、モップ、カーペット等に太糸に再生されます。又、綿(ワタ)の状態で車のクッション材、縫いぐるみ、人形等々の詰め物にもなります。毛糸は色別に分けてそれぞれの毛糸に生まれ変わります。又、毛布、カーペットの材料にもなります。但し反毛材料は毛糸以外は

単価的にゼロ円ないし逆有償価でただ処理している状態です(ゴミを減らすため)当然この努力がなければゴミが増えるということですが、最後に思うことは現状では需要と供給のバランスがくずれている余剰分の新用途開発が急がれます。難問が山積しておりますが解決しなければ我々の業界の明日はないと思います。

(この文をまとめるに当たり一二次の資料を参考にさせていただきました) 中野静夫氏 中野聰恭氏著 ぼろのはなし

リサイクル川柳

- ▼古紙値下げ 業者たまらず音を上げる
- ▼破壊するよ! 環境? いやいや我が業界
- ▼財政も透明袋で出さない

前年を上回る資源化量

昨年度の当組合の資源化量の実績はおおむね左表のとおりです。総量で前年より千二百トンほど多くなっています。

種類別にみるとやはり紙類が九百トン近く伸びており、これは昨秋以来、古紙価格が暴落した影響で民間回収が衰退し行政回収に排出される量が増えたためとおもわれます。

組合扱い96年度資源化量 (1996.3~1997.4) 単位Kg

資源物	小平	柳泉園	東村山	東久留米	東大和市	合計
新聞	1,149,460	1,070,440	559,360	132,760		2,912,020
雑誌	2,863,700	3,033,410	778,370	341,750		7,017,230
段ボール	1,420,250	1,292,800	305,380	275,620		3,294,050
小計	5,433,410	5,396,650	1,643,110	750,130		13,223,300
牛パック白	71,310	25,900				97,210
茶	1,470					1,470
小計	72,780	25,900				98,680
古繊維類	569,209	407,540	253,960	1,810		1,232,519
カレット						
白	634,040				126,000	760,040
茶	257,800				71,450	329,250
緑	151,220				35,920	187,140
黒	46,590				29,130	75,720
小計	1,089,650				262,500	1,352,150
生ビン未処理	437,157				148,054	585,211
小計	327,868				111,041	438,908
缶プレス未処理	665,480					665,480
小計	665,480					665,480
アルミP	210,965					210,965
鉄				343,860		343,860
総合計	8,369,362	5,830,090	1,897,070	1,095,800	373,541	17,565,862
昨年	8,196,261	4,991,950	1,812,463	1,186,338	132,570	16,319,581

日本製紙連合会
会長 大國昌彦殿

要 望 書

昨秋より、断続的に実施された古紙価格の値下げは、市民協力のもと回収事業に携わってきた民間古紙業界を、完全に無視した無軌道な価格設定であったと強く抗議致します。わずか数%の余剰化を理由に行われたこの暴挙は、世界に類例のない我が国の民間回収機構を、一方的に壊滅させようとしています。

そして、市民や企業のボランティア組織が集めた古紙に対し処理費を負担させ、自治体の清掃事業に肩代りさせるような事態になりつつあります。

製紙各社が要求する高品質の製紙原料古紙は、大勢の専門者の手と目を経なければ作れず、その90%以上は既存の回収業者の人材と設備そして市民と築き上げたシステムの上に成り立っています。

すべてのごみの全面的な有料化でも実施されなければ、古紙の逆有償化や行政回収への移行は不可能であり、回収・選分加工・流通のコストを組込んだ古紙価格の設定をしていかなければ、古紙リサイクルそのものが根底から崩れることも十分に懸念されます。

何とぞ、貴連合会におかれましては、この貴重なシステムを存続させるために、最大限の努力を実行して頂きますようお願い申し上げます、全国の回収業者と市民団体の皆様を代表して下記事項を強く要望致します。

要 望 事 項

1. 行き過ぎた古紙価格の値下げを即時撤回し、民間のリサイクル機構が持続できる価格体系を速やかに確立して頂きたい。
2. 古紙市中在庫の厳しい過剰状況を和らげるために、在庫量の積み増しに最大限の協力をして頂きたい。
3. 製造者責務の立場からも『リサイクル56計画』の遂行に全力を挙げて努力し、古紙利用拡大と受け皿作りに責任ある行動を示して頂きたい。

平成 9年 3月28日

日本再生資源事業共同組合連合会
〒101 千代田区神田小川町2-10
TEL 03-3295-8551
会長 福田 啓 治
古紙問題市民行動ネットワーク
市民団体代表 中 村 正 子

日資連古紙暴落決起大会開く

三月二十八日全国の資源回収業者三千社で構成する日本再生资源事業共同組合連合会が、三八市民団体の協賛のもと、『古紙回収機構を守る市民と業者の決起大会』を決行了した。水道橋のパンセホールには、全国から市民・業者合わせて六百名以上が集まり、各地区からの報告、各政党や上部団体そして市民から激励のコールを頂いた。

製紙メーカー二社に出した公開質問状の集計をリサイクル推進委員長である当組合の紺野理事長が発表した。

その中で読み上げられたあるメーカーの勇氣ある告発意見が印象的だった。

『新聞用紙を生産している大手メーカーが、古紙混入率の低い超々軽量紙を売り込んでいます。(現在の新聞用紙は超々軽量紙といって四五％程度の古紙が入っている)。また

一度だけしか使わないティッシュやトイレットペーパーに純パルプ物が増えていて。嘆かわしいことだ。市民も意識を変えないと酷いシッペ返しを受けるのではないか。』と、

大会後全員でデモ行進に移り、途中、衆・参両議長・通産省・厚生省・全国知事会・日本製紙連合会・王子製紙・日本製紙などに請願書や要望書を提出し、緊急対策を要請した。

特に、通産省と日本製紙連合会に対しては、「リサイクル五六計画」(二千年までに古紙利用率を五六％に高める)を予定通り実施していれば、今日の古紙剰化は起こらなかったとして、その責任を強く追及した。

通産省紙業印刷業課々長の答えは『五六計画はあくまでも目標値、目標値は高く掲げるものであり達成は難しい』と、誠に情無い解答だった。回収業界の存亡の危機は間近

かに迫っており、緊急な対策が必要であり、関係機関と回収業界そして全国自治体の一層のご支援ご協力を強く要望しなければならぬ。

古紙暴落阻止を訴えデモ行進



集団回収の

雑誌有料化に御理解を

昨秋から古紙類の流通が鈍化すると共に、価格の低下が続き今年2月に入ってからは回収経費の半分も出ない程値下がりし、更に統落が予想されています。特に雑誌は各古紙問屋が大量の在庫を抱えている為、逆有償(価格表参照)になる所もあり、回収すればするほど赤字になる有様です。当組合としても各市に対して回収業者にも助成をと、お願いしています。が、実施してない市が多く、このままでは回収の継続が困難になり、貴重なリサイクルシステムが崩壊し莫大なコストのかかる行政回収に移行する事は明らかです。

各回収団体の皆様には今までにない厳しい状況を御理解いただき、古紙市況が回復するまで回収にかかる費用の応分のご負担をお願いいたします。

ペットボトル工場を見学

もうすっかり私たちの生活に溶け込んでいるPETボトル。炭酸飲料、ジュース、コーヒー、紅茶、スポーツ飲料ミネラルウォーター、日本酒その他数え上げると切りがありません。その使用済みPETボトルがリサイクルできることをご存じですか？

二月二八日、栃木県小山市にある「ウイズペットボトルリサイクル㈱」を組合員全員で見学しました。

敷地内には沢山のペットボトルの山を見てびっくりしました。ここでの再生工程を説明します。①、ボトル受入（プレス梱包状態で搬入される。）②、重量分離（中身の入ったボトル、ガラスびんが除去される）③、ボトル穴あけ（丸洗いを容易にするため）④、塩ビ・ボトル分離（X線により塩ビ成分を検知

し除去する）⑤、ボトルの洗浄（アルカリ性の熱水で丸洗いラベル、ゴミを分離する）⑥、着色ボトルの分離（手選別による着色ボトルと異物を除去する）⑦、湿式粉碎（透明ボトルのみを8mm角に粉碎する）⑧、攪拌洗浄する。⑨、比重分離（ポリエチレン、ポリプロピレンは水に浮き、PET、金属などは沈む）⑩、フレーク乾燥（PETフレークを熱風乾燥する）⑪、風選分離（風力、重力によりラベル、微粉末を除去する）⑫、アルミニウム・金属の分離（静電気によりアルミニウム・金属粉などを除去する）⑬、リンス比重分離（リンス剤で再洗浄し残存する接着剤などを除去する）⑭、フレーク乾燥（熱風乾燥する）⑮、微粉除去（フルイにて微粉を除去する）⑯、包装 ⑰、出荷に至る。これだけで2時間の工程です。それでもフレ

イクの中に金属片が混じっていました。

PETボトルはきれいで、丈夫で、軽くてリサイクルできるという特徴をもっているのです。どうか、PETボトルを出す時はキャップをはずし、中をゆすいでくださるようお願いいたします。

ウイズウエスト工場で



あいまいな消費税

三%の消費税が導入されて八年・定着しつつ消費税の滞納者が多いとか。消費税を上げる前にかたづけして置かなければならなかった問題のはずだ。四月から五%負担が大きいの。国の財政赤字を勤労者、零細業者から絞りとりれば、かたが済むと安易に決め付ける政、官、大企業の癒着に怒りを感じる。より公平な税制を望むとともに、税の使われ方に監視の目と発言できる力を身に付けていきたい。

不安だけが残ってどんどん進んでしまっている日本の先行きが心配！

国民が納得する税対策を心から願います。

いろんな矛盾を考えると小さなつぶやきも大きな怒りに変わってくる今日この頃です。

（月光仮面）

私の履歴書

(有)藤本チエーン

代表取締役社長 藤本俊光
南満州鉄道株式会社、略して『満鉄』。満鉄は平成八年十一月二六日に設立九十周年を迎えました。昭和十四年三月満鉄社員の入社試験、姫路市公会堂は人で一杯でした。合格者発表と同時に『ハイ支度金、これは渡満する乗船切符です』有無を云わさず満州へ。満州の玄関大連港に上陸。白露戦争当時の兵舎が宿舎で、大連鉄道学院通信本科生として一ヶ年、有線の通信技術と鉄道現業員必須の諸規定を学び、卒業して通遼駅に配属。内蒙古に近く砂漠に包まれ、黄塵の発生場所の様な土地でした。日本人の独身女性は満鉄病院の看護婦さん二人、電話の交換手三名という田舎。でも二年間大変楽しい青春の思い出の多い日々でした。

昭和十七年春、大連鉄道学院に中等部が新設され一期生として半年学び、続いてハルピン鉄道学院に業務科が新設されたのでやはり一期生として日本全国から集まった中卒の人達と半年間、鉄道の現場で必要な勉強を！

現在でも年一回当時の友が全国から集まって同窓会を開いています。

学院卒業後ハルピンを中心に列車の車掌さんです。満鉄の貨物列車は一輛が十一輛で、五十輛連結してあり最後部に小さな車掌車がぶら下がる様に付いてるのです。八時間乗務して八時間仮眠して八時間乗務して帰り、二四時間以上休んで次の乗務です。ハルピンは交通の中心であり、ロシア人も多く住んでたので満州の中で一番モダンな町だったと思います。

昭和二十年六月現役召集を受け東満国境に近い歩兵部隊

の通信中隊に入隊、野外演習に出た野山には花が一杯咲き乱れ終戦前夜という重苦しさもない新兵生活でした。でも間もなくソ連国境近くに陣地構築のため出発、そしてソ連の参戦で総てを捨て山の中へ、木を切りながら、南へ南へと向かって退却！終戦を知り、武装解除されたのは二十年九月でした。

満鉄マークの入った貨車



仕事の裏はなし

失せ物発見奮闘記

僕の会社は集団回収や新聞社回収などの古紙回収を主にやっています。なんと言っても超零細なもので、社長が現場で毎日バリバリやっている会社です。今回は、こんな会社の裏はなしと言う事なので資金繰りや人材の苦勞を書こうと思ったのですが、理事長に暗くなる方じゃなく読者が喜ぶ方をと、言われたためドジやズッコケを書こうと思います。

僕は、あまり無いのですがお客さんにこの手の話しはケッコウある様です。一番多いのが新聞の中や雑誌に何かを入れてしまった！と言う電話で、様々な物を入れて下さいます。貯金通帳、印鑑、財布、免許証、家の鍵、おもしろいのが、子供のテストで、見つけてどーすんの？と思って聞

こうかと思っただけだやめま
した。自分に置き換えて、記
念にそんな物とっておいても
らっても困るんだよ！お母さ
んと言う感じで、その子供に
同情しました。これは置き換
え過ぎですね。

さて、話しはこれらの失せ
物を探す時に進みます。トラ
ックいっぱい荷物の中から
これらの貴重品を探すのは大
変だと思ってしまう？ハイ、
大変です。ただし体力的にで
す。新聞社回収などのある程
度ルートが決まった作業の場
合だいたい80%位の確率で
見つける事が出来ます。ただ
し違う所に入れた場合と気が
付いた時間が遅い場合はご勘
弁です。なぜなら違う所は当
然として時間が遅れた場合は
いっぺんにリフトで下ろして
しまうので何がなんだか分か
らなくなってしまうからだ。
早い場合は相手の住所を聞いて
あの辺の場所ならこの辺り

にあるだろうとめぼしを付け
て手で下ろして行くとあれ不
思議、出てくるんですね！こ
れが。

人間というのは大した物で
一個、一個、下ろしていくう
ちにその時の様子が思い出さ
れてああ何だあの赤いヒモで
しばったあの家のやつかなど
と一人言をいいながらその新
聞を見つけて鍵なり通帳なり
を見つけていくんです。見つ
けた時は、まるで我ものを探
し出した様に大喜びして大満
足。大体、お楽しみはこしま
で。見つけたと言う連絡をし
て『アリガトウ』と言われて
終り。見返りが欲しいとは言
わないがチョットは欲しい。
これ本音です。

この様にけっこう自分では
楽しんで仕事をしています。
自分では面白いと思いいながら
書いていきますが皆さんはどう
でしょうか？今回はこの辺で
終りにしておきます。(古紙巻)

行事・行動

(二月)

三日：東久留米ごみ減量審
野木町R・C視察

四日：財務委員会

六日：東村山市ごみ減量審
税務講習会

一二日：定例理事会

一七日：東久留米ごみ減量審

一八日：広報委員会

二七日：古紙C業務委

二四日：有機資源懇で講演

二八日：ウイズウエスト・ペ
ットボトル工場見学

(三月)

一日：小平市ごみ減量審

四日：R団連古紙部会

七日：古紙C古紙分別委

一日：定例理事会

一三日：古紙C業務委

一八日：広報委員会

二四日：小平RC安全会議

二七日：東村山ごみ減量審

二八日：日資連総決起大会

【五月23日総会・ルネ小平】

編集後記

今号の直言拝聴に御寄稿下
さいました後藤弘太郎様、大
変勉強になる直言ありがとうございました。
また山際社長
の「ボロのはなし」も資料を
探して書いて頂きありがとうございます。
ございました。昭和二八年ご
ろの話しをもっと聞いてみた
ところですよ。

とうとう業者の我慢も限界
をこえました、三月二八日の
六百人の抗議デモは日本全国
に居る我々の仲間の苦しみの
声を広く国民、メーカー、行
政に訴える怒りの行進となり
ました。フランスのデモやス
トから比べるとまだまだた
りないような気がします。それ
より残念なことは、デモの記
事が2、3の新聞しか取り上
げてくれませんでした。今度
はヴィーナス通信を日本中の
マスコミに送りましょう。

(吉浦)